

令和6年度 第4回恵那市社会教育委員会議事録

開催日時：令和6年11月12日（火）

午後3時00分～4時45分

開催場所：大井小学校ピロティ及び図工室

会議次第

1. 開会あいさつ
 2. 社会教育委員長あいさつ
 3. 議題
 - (1) 令和6年度第3回社会教育委員会会議録の承認について
 - (2) 放課後子ども教室コーディネーターとの意見交流
 4. その他
 5. 閉会
- ◆視察研修（15:30～15:50）
1. 放課後子ども教室の視察（大井小学校ペンギンクラブ）

・出席者の数：社会教育委員14人中12人、事務局4人（以下のとおり）

	役職	氏名	選出団体等	出欠
1	委員長	林 達夫	三学のまち推進委員会委員	出席
2	副委員長	山田 恵市	文化振興会	出席
3	委員	高草 環	図書館サポーターえな	出席
4	委員	山内 正一	学識経験者	出席
5	委員	相原 正文	恵那市青少年育成市民会議	出席
6	委員	森川 伸江	保育士・幼稚園教諭経験者	欠席
7	委員	柘植 俊夫	民生委員児童委員協議会	出席
8	委員	小林 英文	壮健クラブ連合会	出席
9	委員	後藤 光男	NPOまちづくり団体	出席
10	委員	田口 容子	放課後子ども教室コーディネーター	出席
11	委員	各務 周和子	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
12	委員	山口 清季	恵那ライオンズクラブ	出席
13	委員	阪上 美代子	恵那市スポーツ推進委員連絡協議会	欠席
14	委員	藤井 志保	校長会代表（中野方小学校長）	出席

事務局

1	教育長	岡田 庄二	恵那市教育委員会	欠席
2	課長	柄澤 史枝	社会教育課	出席
3	主幹	遠山 直美	社会教育課	出席
4	課長補佐兼係長	伊東 将昭	〃 三学運動推進係	出席
5	主査	今井 ちえこ	〃 三学運動推進係	欠席
6	社会教育指導員	丸山 眞理子	〃 三学運動推進係	出席
7	社会教育指導員	太田 礼子	〃 三学運動推進係	欠席

開会

(事務局) 皆さま、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。これより令和6年度第4回恵那市社会教育委員会を開催させていただきます。次第の順番を変えて開催させていただきます。先に放課後子ども教室の視察を予定しておりましたが、活動開始が15時30分頃からとなりますので、先に議題1まで進め、その後視察とさせていただきます。それでは、開会のあいさつを柄澤社会教育課長が申し上げます。

1. 開会あいさつ

(課長) いつもより遅い時間の開催となりますが、放課後子ども教室を視察するためこの時間とさせていただきました。放課後子ども教室は、地域学校協働活動の一部ということで、三学のまちを推進していくためにも重要となっていますので、皆様にしっかり見ていただいて、見たこと感じたことを後ほど聞かせていただけたらと思います。本日はよろしくお願いします。

2. 社会教育委員長あいさつ

(事務局) 林委員長よりごあいさついただきます。

(委員長) こんにちは。今日は恵那インター付近の温度計が23℃でした。日中は温かいですね。今日は、大井小学校の子ども教室を見学させていただきます。今年度社会教育委員会のテーマが子育てですので、子育ての一部として放課後子ども教室の実態を知って、今後、他の活動も見ていきたいと思います。恵那市の子育ての状況がどうなっているか、みんなで調べて研究していきたいと思います。今日は、放課後子ども教室をしっかり見て学ぶという姿勢でいきたいと思います。

もうひとつ、来年8月の東濃大会、10月の東海北陸大会で発表が当たっています。8月は子育て、10月は地域学校協働活動での社会教育委員会の役割をテーマとして発表したらどうかと思います。原案を作ってきましたので読んでいただいて、よければプロジェクトを作りながら進めてきたいと思います。

それでは、今日はしっかり学んでいきましょう。

(事務局)今日は、大井小学校の図工室をお借りしました。いつもとは感じが違いますが、ご了承いただきますようお願いいたします。では、議題に入ります。進行は委員長にお任せします。

3. 議題

(1) 令和6年度第3回社会教育委員会会議録の承認について

(委員長)会議終了後、意見のある方は事務局へお願いします。読んでふりかえると、皆さん、とてもいいことを言っていると感じました。

4. その他【視察時間の都合で先に行く】

(事務局)10月4日、高山市で開かれた岐阜県社会教育推進大会に社会教育委員と三学塾塾長とで参加しました。参加いただいた委員の皆さま、ありがとうございました。事例発表が3つありました。関市のお寺の住職から子ども食堂の話、川辺町の教育委員会職員からボート体験の話、高山市まちづくり協議会事務局長から地域学校協働活動の話でした。これらを活かしながら恵那市の取り組みにつなげていきたいと思います。

もうひとつ、10月10～11日に東海北陸社会教育研究大会が富山市で開催されました。7名の委員さんに泊りがけでご参加いただきました。記念講演は富山県在住の写真家イナガキヤスト氏がSNSで発信している富山市の魅力、後世に残していきたいことについて、写真を見ながらお話を聞きました。2日目、家庭教育、青少年、地域文化、地域の活性、社会教育委員の役割と課題の5つの分科会に分かれてご参加いただきました。

先に委員長からお話がありましたが、毎年8月に行われている東濃地区の大会があります。それが来年度瑞浪市で開催され、社会教育の分野で恵那市に発表が当たっています。東海北陸の社会教育大会が10月3日に岐阜県瑞穂市市民センターであり、県の大会も同時開催となります。恵那市は分科会での発表が当たっています。委員長がテーマと内容を考えてくださっていますので、今日、その話もあるかと思います。今年度の大会報告と来年度の大会予定について、ご承知置き願います。また、高山市で開催された県の社会教育大会では、山内委員が表彰されましたのでご報告させていただきます。

委員さん方から、最近の情報や皆さんに共有するといった情報をお持ちでしたらお願いします。【発言なし】

続いて、林委員長から、令和7年度東海北陸社会教育研究大会での発表に向けたお話をお願いできますでしょうか。

(委員長)恵那市の社会教育委員会の役割と方針に関連した事例として、地域学校協働活動の推進について諮問を受けて取り組んできましたので、これを発表に上げていくといいかと思います。

原稿の構成ですが、1つ目は、山内さんたちが中心になって作られた恵那市制20周年の恵那市史の中から、恵那市の社会教育行政の変遷が書いてありましたので入れました。必要かどうかまた検討いただきたいと思います。

2つ目は地域の社会教育活動ということで、それぞれ地域の公民館からコミュニティセンターに変わったということ、公民館はないということです。

3つ目は、恵那市の社会教育委員会の歩みと役割の明確化ということです。はじめはテーマもなくただ集まって話し合っ、教育委員会からの説明を受けるだけでしたが、塾長制度ができて地域では困惑している状況があったため、教育委員会から諮問を受け、社会教育委員会で検討し答申しました。塾長の仕事など、地域学校協働活動について書いてあります。答申内容の推進と進捗状況の把握のため、答申を出して終わりではなく、それを振り返りながらやっているということを入れました。また、具体的な事例を1つ出せたらと思います。

4つ目は、新しいテーマとして学童期の子育てについて、解決策が出るように勉強しているということです。そして、教育長の諮問を受けて答申を出した事例ということで、地域学校協働活動のを中心にしてしています。地域学校協働活動の事例も含めて紹介できたらと思います。

5つ目は、恵那市の社会教育委員会の役割と方針ということで、恵那市の社会教育委員会は、それぞれの地域でなく市全体のことをまとめて方向性を出し、それを地域でやりやすいように具体化していくということを書いてあります。進め方は、プロジェクトチームを作って話し合っ、皆さんに提示して意見をもらっ、プレゼンまでもっていきたいと思います。皆で作る発表としていきたいと思います。今年度中に大まかに仕上げ、東海北陸大会に向け作っていききたいと思います。

(事務局) 委員長より、5つの項目に構成された原稿を作っ、テーマや流れの説明がありました。これは10月の瑞穂市の大会に向けたものです。この内容でよろしければ、今後、原稿を詰め、プレゼン資料の作成、発表の練習をする流れです。原稿・プレゼン資料は年度内を目途に進めていくということでした。発表に向けて、何名かの委員さんに入っ、プロジェクトで進めていききたいということでした。委員の皆さんから、ご意見ご提案ありましたらお願いします。

(委員長) 事務局から説明のあった流れで進めていっ、よろしいでしょうか。山内さん、相原さん、副委員長、事務局と私でまず原案を作っ、皆さんに検討いただくということでしょうか。事例は、地域で上手に活動をしている事例を出っ、いただきたいと思います。来年、事務局を含めメンバーが変わっ、と何のことか分からなくなっ、ので、年内に原案を作っ、皆さんにかけたいと思います。【承認】

(事務局) 答申の時に小委員会として活動してくださったメンバーでやっ、いきたいと思っ、ます。よろしくおっ、します。このあと、放課後子ども教室の視察をしてから、議題3(2)に戻り、コーディネーターとの意見交流になります。活動の感想や3名のコーディネーターさんとの交流で、今の子どもたちのことを話っ、いきたいと思っ、ます。放課後子ども教室は子育て施策の一部です。その一部を知っ、もらっ、で、どんどん広げ、恵那市の子どもたちの家庭教育、子育てをどうしていくかというところまで調査研究を深めていけたらと思っ、ます。そのきっかけとして、今日の視察があるということでおっ、します。【移動・視察】

3. 議題

(2) 放課後子ども教室コーディネーターとの意見交流

(指導員) 前年度の子ども教室の冊子、昨年度末に取ったアンケートをご覧ください。

(事務局) では、後半始めます。今、ペンギンクラブの活動を見ていただきました。4ページをご覧ください。意見交流の流れとして、まず、話題提供として丸山指導員から、現状についてお伝えします。3名のコーディネーターさんから、工夫していること、苦労していることをお話いただき、その後、意見交流として、今日の感想や質問を出していただきたいと思います。まず、本日お越しいただいたコーディネーターさんの自己紹介をお願いします。

(市川) 恵那北小放課後子ども教室を担当しています。前任者から引き継ぎ7年、ボランティア参加から9年くらいです。

(三浦) 山岡小のやまっこクラブを担当しています。6年目です。

(小栗) 三郷小のなかよしクラブを担当しています。7年目です。

(事務局) 3名からは、後ほど現在の教室の様子を聞かせていただきます。まず、丸山指導員から市全体の放課後子ども教室の現状をお伝えします。

(指導員) 今ほど見ていただいたのは、ペンギンクラブで、自然遊びをやっていました。えーな木育クラブから3名の指導者、保護者の当番が2人、他はすべてボランティアで子どもと一緒に遊んで下さっています。今紹介ありましたこちらの3名の他5名のコーディネーター、他に安全管理員16名、学童スタッフやコミセン主事含め、総勢20名のスタッフで今年度活動し、私が総括をさせていただいています。現状について3点お話しします。

1つ目は参加者数と参加率です。教室によって増減はありますが、子どもの減少によって全体としては減ってきております。参加率が高いところは、中野方で70%、これは5.6年生が寺子屋という活動をしており、放課後の活動が地域に根付いているのかと思います。中野方は新しく始まった子ども教室ですが、このくらいの%で皆さん入ってくれています。一番少ないところは、長島の6%。その昔は大勢、60~70人ほどいたようですが、コーディネーター不在でしばらく閉鎖して再開された経緯があります。そんな中で、学童以外の子どもの対象に放課後子ども教室を行うという流れがあったようで、参加者が少ない状態です。串原、上矢作、明智、東野はコミュニティセンターの主事さんを中心に活動していただいています。中野方は令和5年度から始まりましたが、東野は学童に協力いただき、同じような形で令和7年度からスタートできるよう準備を進めている所です。

2つ目はR5アンケートです。学校で使用している連絡用アプリ「すぐーる」を使って行いました。各家庭複数名登録しており、各家庭1名の回答で依頼したので、回答率は60.2%でしたが、ほぼすべての家庭から回答がありました。「社会性の育成について」の問いに、「そう思う・どちらかというと思う」は合わせて84.6%となりました。記述式回答については、順次回していますので、ご覧下さい。「社会性の育成」「課題に対する提案」「よかったこと」を色分けしています。

3つ目です。R6中間アンケートについては、10月に「社会性の育成」についての

み、アンケートを取りました。回収率は60%程度でしたが、「家庭で過ごすのと比較して、異年齢の子どもや地域の人との交流ができたと思いますか」の問いに「そう思う・どちらかと思うとそう思う」は97.6%、「家庭で過ごすのと比較して、子ども教室の活動を通して、お子さんは社会性が身についたと思いますか」の問いに「そう思う・どちらかと思うとそう思う」は88.7%でした。逆に「どちらかというと思わない・そう思わない」を選択した人の理由として、「もっといろんな人と関わる力をつけてほしい」「月1回の活動では、出会いや活動があったとしても、社会性が身につくところまでは育たないのではないか」という意見がたくさんありました。教室ごとに地域性や子どもの性質がありますので、今日来ていただいたコーディネーターさん3名からそれぞれの教室についてお話していただきます。

（恵那北小コーディネーター）毎年10回程度実施しています。児童や保護者からのアンケート、ボランティアの意見、自分が感じたことを基にして、運動、ものづくり、野外活動など、偏らないように計画していますが、毎年反省するところもあります。いい意見もいただきますが、「毎年同じような活動なので、新しいことをさせてほしい」というような保護者からのご意見もありますので、その点も加味しながら、地域との活動と壮健クラブさんとの活動は固定して動かせないので、それ以外の7回程度をローテーションしながら考えています。講師選定が毎年悩みどころです。北小は、飛び出してどこかに行ってしまう子が少ない教室でしたが、時代の流れとともに、少し勝手なことをする子がでてきて、その子たちをボランティアさんにみてもらうことが増え、活動に参加してもらうことが難しくなってきました。ボランティアは地域の方だけでなく、保護者さんにももう少し入っていただきたいのですが、お仕事をしている人も多いので、無理を言えません。大井小や大井第二小は保護者当番制を設けていますが、それをしてしまうと参加人数が減りそうなので、今のところ保護者当番は設けておらず、お手伝いを申し出てくれた保護者に来ていただける時に来てもらう形にしています。中学生ボランティアも始めました。北中学校は月曜日が早帰り、参加しやすい日になっていて、北小の活動日と重なりやすいので、ボランティア部やそれ以外のお子さんたちに協力いただいて、いい形になっていると思います。安全管理員さんが高齢で辞められたので探している所です。以上です。

（山岡小コーディネーター）毎年20名程度の活動でしたが、今年度31名になりました。毎年参加している子が友達を連れてきて増えていると思います。なので、活動自体は子どもたちに好評なのかなと受け取っています。人数が増えた分、準備が大変です。今日見てもらったネイチャーゲームは講師がすべて用意してくれるのでいいですが、工作の準備をするのは、31人分だと大変です。また、落ち着きのない子が来ると、声も大きくなって収集がつかない時もあります。山岡小は工作が好きな子が多いようで、人数が多くても集中してやっています。それぞれの学校の色があって面白いと思います。岩邑小のいわっこクラブが毎年田植えを取り入れていて、おもしろいと思って見学させてもらいました。山岡も昔、1、2回やったけれど続かなかったようで、地域の人たちと一緒にできる活動を取り入れられたらと考えています。準備が大変なので、サポーターさんに声をかけたいと思いつつ、ボランティアになってしまうので声もかけにくいとこ

ろです。今日のペンギンクラブのコーディネーターさんからの意見ですが、サポーターが確保しにくいのが悩みで、子どもが好きな地域のおじさん、おばさんが手伝ってくれるといいなと思っているそうです。以上です。

(三郷小コーディネーター) 今年度は7回活動を計画しています。昨年までは2月までやっていましたが、風邪や寒さで大変なので、1月で終わりにしました。家でテレビやゲームの時間が多くなるので、運動、工作、自然遊びを入れて計画しています。工夫している点は、寒い時期にサッカーなどしていましたが、寒すぎるので、7月にサッカー、9月に野球を計画しました。けれど、今年は熱中症アラートに悩まされて、活動が外でできるか教室で別の遊びにするか、講師に来てもらってもできなければ帰っていただくことになるのでドキドキしていました。タイミングよく気温が下がりサッカーも野球も行うことができました。自分の子どもがスポ少に入っていて、団員を増やしたいという思いもあり、スポ少のお父さんに野球を教えてもらいました。野球をやったことがない子が多いので、終わってから「楽しかった」と言ってくれる子も多くうれしいです。団員になりたいという子もたまにいたりするので、これからも取り入れたいと思います。講師謝礼5,000円をお願いしています。警報が出たりして活動ができないと、全くお支払いできないのですが、事前の打ち合わせや準備のことを考えると、中止になっても2,000円くらい支払えるとありがたいです。以上です。

(事務局) 各子ども教室の現状として、携わっていただいているコーディネーターさんの教室の様子、業務の実態をお伝えいただきました。これからの時間ですが、社会教育委員さんも含めて、子どもたちの現状、今の子どもたちがどんな傾向にあるか、もう少し広げまして、子どもの居場所ということで、子どもたちに求められていること、子どもたちに期待すること、願うこと、そのために地域としてどんなことができるかなど、意見交換ができたと思います。ペンギンクラブを見ていただいた感想でも構いません。委員の皆さんご意見いかがでしょうか。

(委員) 木の枝からシャボン玉を出すのは肺活量がいると思ったが、みんなできていてよかった。

(委員) 学童に行っている子は、子ども教室に参加していますか。

(コーディネーター) 参加しています。終わったら学童の先生が迎えに来ます。

(委員) 放課後子ども教室と学童の区別が理解できないのですが、中野方にもあるのかと質問したら、学童の人が関わっているということでした。学童と子ども教室は別のものだと思いますが、どう区別しているのでしょうか。あと、年に7回くらいしかできないとか、中野方も月1回。うちの孫は中学生ですが、小学生の頃はあったのでしょうか。

(指導員) 中野方は、令和5年度からスタートしています。

(委員) ありがとうございます。

(委員) 今日やっている方は、ずっと支援員をしていて、月に1回子ども教室をやってらっしゃる。かけもちの方もいらっしゃる。今日いらっしゃった3名は、子ども教室専任の方ですか。

(コーディネーター) いえ、仕事してから来ました。

(委員) やってくれる人がいないと困りますね。

(事務局) 6年7年とやってもらっているので助かりますが。

(指導員) コーディネーターさんもですが、安全管理員さんといって、子どもたちの安全管理面を担当し、トイレに連れてってもらったり、けがした時に対応していただいたりしてもらっています。その2人でやっているのですが、お子さんが小学生で子ども教室に参加している時に一緒にお手伝いしてくださった方が、こうしてコーディネーターをやってくださっていて本当にありがたいのです。みなさん、お子さんも大きくなってきているので、次の方に引き継ぎたいと言われるのですが、なかなかいらっしやらないという状況です。

(委員長) 参加者はどういう家庭の方が多いですか。共働き世帯で放課後面倒をみられないのか、それとも、面倒みる人はいるが、テーマが社会性を養うということを強調しているのか、そういうことを求めているのか。昔、私たちが子どもの頃は、放課後、地域で集まって遊んでいるうちに社会性は養われたのですが、今ないので。

(コーディネーター) 山岡は、1/3 くらい学童の子で、2/3 くらい祖父母が家にいるけれど楽しそうだから、と参加してくれています。大井小は、学童の子が多いそうです。学校によって差があると思います。

(委員長) 街の子と田舎の子では違いますね。

(委員) 山岡はバス通の子が多いと思いますが、バスに乗らずに子ども教室に参加すると、帰りは家庭の迎えですか。

(コーディネーター) そうですね。

(委員) 迎えに行っても、参加させたいということですね。

(コーディネーター) 祖父母が迎えに来てくれるなど、協力してくれている家庭もあります。

(コーディネーター) 北小もバスなので、迎えに行ける人がいないから子ども教室に参加しないという人もいます。家に誰かいたり、4時頃母親の仕事が終わるので迎えに行けるという家庭が多いです。学童に行っていない子の方が、参加率が高いです。

(委員長) うちは年寄りが2人家にいますので、送り迎えをしています。

(コーディネーター) 委員長の奥様にも、お茶の先生をしていただいたことがあります。季節のことを織り込んで茶碗を選んでいただいたり、地元の方に栗きんとんを用意してもらったり、とてもいい会だったのですが、その後コロナがきて、難しくなっていました。また出来たらいいなと思います。

(委員長) どういう家庭の子が参加するのかということですが、おじいちゃんおばあちゃんがいればみられます。昔はそうでした。

(委員) 昔は、近所に子どもたちがいたけれど、今は、周りに誰もいません。うちの孫も学童にも行っていますが、親が働いていなくても参加できる放課後の活動は大事だと思います。

(コーディネーター) 学校とは違って、放課後にみんなで遊びたい、というのは、私たちの時代には当たり前だったんですけど。

(委員) そう、縦割りで。

(コーディネーター) 私は山の中に住んでいたので周りに友達がいなかったのですが、

土曜日半日学校へ行って、家に帰ってからまた学校を挟んだ反対側の山にいった友達と遊んでいました。10 キロくらいかけて。今はとてもじゃないけど危なくてそんなことさせてもらえません。なので、1 時間でも 1 時間 20 分でも、学校以外の遊びをできるのがいいのかなと思います。

（委員長）今日の様子を見ていたら、予想外のことが起きて発見があり、喜びにつながりますね。放課後子ども教室のねらいは勉強ですか、保育ですか。

（コーディネーター）「これをやったら子どもたちは何を得られるか」は、計画を立てるときに考えています。例えば、田植えができる家庭の子ばかりではなく、田んぼがあってもお任せしていることも多い。泥に足を入れたことがない子もいると思います。縄ないとか竹で水鉄砲を作るとか、私たちも知らなかったことを地域の人から教えてもらいます。父親世代も知らないことをおじいさん世代から習います。この活動もあって、おじいさん方も、少し下の人たちへ引き継いでいってくれています。

（委員長）月に 1 回程度、自然体験とか学校でできないことを大切にしているのかなと思いました。その辺は明確になっていますか？学童は保育かと思いますが。私たちは、学童も放課後子ども教室もどちらも一緒かと思っていましたが、文化や自然などを体験させることを大事にしているのかなと感じました。根底には社会性がありますね。そういうことを共通して恵那市の放課後子ども教室では根底は一緒でやってみえるので、ブレがないんじゃないかと思って見ていました。その辺がしっかりしていると、親さんも「学校では体験していないことをさせてもらってるんだ」と思えます。今日、虫眼鏡を使っている時「虫を見るんじゃない、虫になるんだ」という言葉を聞いて新鮮でした。子どもの予想と違うこと、学校の先生と違うアイデア。子どもは好奇心があれば、自分から動きます。今日の指導者はその辺、とても上手にやっていたように思います。地域性を取り入れて、その地域にあった素材でやってもらえたらと思います。

（事務局）そろそろ時間になりますが、他の委員さんいかがでしょうか。コーディネーターさんから何かありますか。

（コーディネーター）毎月どんな活動をしようかと考えるのですが、講師を見つけるのも大変で、「こんな先生いるよ」と教えていただけたら活動の幅も広がるのかなと思います。他の教室でやってよかった先生を紹介してもらいながら計画を立てていますが、もしいらしたら教えてください。

（委員）教育委員会の教育研究所や社会教育課、文化課、様々なジャンルがありますよね。文化振興会など、講師の人材バンクは整ったものがありますか？人材バンクをつくらうと頑張っていた時期があります。

（課長）放課後子ども教室の担当課は社会教育課なので、「こういう分野で誰か探してもらえないか」というお話しをいただければ、他の課にも問い合わせ探すことはできると思います。全体の講師をすべて取りまとめているかというと、思いつかないです。

（委員）一度募集してみてもいいですか。

（課長）市民講座の講師や、他の講座で講師をやっていた方にお声掛けすればやってもらえるとは思いますが。

（委員）地域学校協働本部ができてきているので、その中から情報をもらうのもいいか

もしれません。

(委員) 広報で宣伝してみないと、なかなか集まりません。0人でもいいので募集をかけてみるといいと思います。俳句から自然活動から色々できる人もいたり、本も書け、話もでき、カメラマンでもある人もいたりします。

(委員) 口コミで集めることもできますね。

(委員) 年間計画を立ててから子どもを募集するのですか。

(コーディネーター) 新学期に年間計画を出して募集します。前年度中に計画する際、他の学校のコーディネーターからの紹介や、三学ガイドブックの講師一覧、その他口コミなどから講師を探しています。あと、中止になった時に講師料がお支払いできず申し訳なく思っています。以前、岐阜市の講師に会場まで来ていただいたのに警報が出てしまい、中止になったことがありました。講師を頼むとなると、急に中止になった場合、講師料をお支払いできないことを了承してくれる方になってしまいます。また、講師1団体で5,000円なので、ほぼボランティアになってしまいます。

(委員) 朴の木とか、虫眼鏡とか、貴重な体験をさせていただきました。ここにもあるように、「期待すること」とか、「地域としてできること」など、気になるワードがありました。私は白川町在住ですが、若い人たちが出ていってしまうこともあって、1クラス1人とか2人とかです。こうやって、貴重な体験をさせてもらって、三つ子の魂百までではないですが、こんな経験をどんどんしておけば、大きくなってこの地を離れても、やっぱり恵那市がいいと思って戻ってくるんじゃないかなとふと考えました。ライオンズクラブに戻って、今日の体験を伝えたいと思います。子どもたちが感動できるような活動を深めていきたいと思います。ありがとうございました。

(コーディネーター) 時間もまいりましたので、ここで閉めさせていただきます。

6. 閉会

(副委員長) 今日は、お話を聞かせていただいたり、実際に見せていただいたりしてありがとうございました。ああいう機会は必要だと実感しました。恵那市の流れは国の流れに沿っていますが、今から17、8年前に学童ができ、放課後青少年健全育成事業の中の1つで、放課後のあいまいな居場所づくりから、より良い場所を作りましょうということではじまりました。厚労省だけでなく、文科省もタイアップして、放課後子ども教室も組み合わせと一緒に子どもを育てたらどうかということで17年前に提案されました。その時教育委員会に居ましたので、社会教育と学校教育でどっちがやるかなど話していました。その時、恵那市は学童は民設民営でしたので、大井小校区は公民館で大井町に住んでいる方がやっていました。長島小校区は学童というより児童センターでやっていました。祖父母もいるので、なんで学童に行かなくてはいけないのかという声もありました。季節学童もありました。学校内ではじめて学童を立ち上げたのが大井小学校です。そこに放課後子ども教室はあり、タイアップまではいかないかもしれませんが、協力しながらできている。17年たって、子どもを取り巻く環境が整ってきていると思い感謝を申し上げます。

人材不足で課題山積ですが、これに加えて三学塾塾長は文化祭に子どもを呼んで一緒に

やったりしています。地域学校協働活動が加わり制度的には整ってきています。現場でお聞きしますと、後継ぎ問題や講師がいないなどの声もあります。当たり前で何とか回っているのか、私たちも調査していきたいと思います。今日は参加させていただき貴重な経験となりました。ありがとうございました。

次回日程

日時：令和7年1月22日（水） 午後1時30分～

場所：恵那市役所西庁舎3階 災害対策室A・B

内容：地域学校協働活動の状況調査（地域学校協働活動推進員との合同会議）